

東京都立大学

文学博士

次良丸睦子 Internal-External Locus of Control の行動分析

本研究は、人の行動が、その個人とその個人をとりまく社会的環境条件の相互作用によって決定され、環境的要因がパーソナリティ研究の1つの重要な側面であるという前提のもとに、次の理論的仮説を設定した。つまり人の行動は、ある個人が社会的な強化を受けて形成された人格変数（ここでは内的統制型・外的統制型）とその人格変数がもつある目標に対しての付随した価値に依存していると考え、この人格変数としての内的統制型・外的統制型の概念の有効性を検討吟味した。

本論の全体は、理論的考察にはじまって、J-R 式、I-E 尺度（次良丸—ロッター式内的・外的統制型尺度）の作成、11種の調査及びテスト、13種の実験から構成されたものである。以下、研究結果を示すことにする。

(I) J-R 式、I-E 尺度の作成

この尺度は、Rotter, J.B. (1966) の I-E scale をもとに日本人の性格特性、社会的、文化的な特徴をいかして選定した49項目よりなる性格テストである。49項目の中には、10項目の虚構尺度、7項目の中性尺度が挿入されている。I-E 項目は内的統制型・外的統制型を十分測定しうる項目ということに主眼点をおき、一応、おかれている状況にかかわらず、定常的に把握される人格変数を測定する項目である。この J-R 式、I-E 尺度をつかって研究を進めた。

(II) 内的統制型・外的統制型のパーソナリティ特徴

J-R 式、I-E 尺度で選出された個人（内的統制型・外的統制型）について、そのパーソナリティ特徴を明確化した。その結果、内的統制型・外的統制型の概念と生物学的基礎をもつパーソナリティとのあいだには、特に明確な関係は見出されず、この人格変数は人の発達過程で形成され、さまざまな環境的要因によって強化され発達すると結論づけられた。また、これらの人格変数のもつ性格特徴を示すと、内的統制型は外的統制型に比較して、社交性に富み、劣等感・失敗感が少なく神経質の傾向がない。また、自尊心が高く、自己に対して自信と尊厳をもっていて想像力に富み、鋭い機智があり、知的で思考が明晰。責任感強く徹底性があり、進歩的で自発的。誠実味があつて倫理的、道徳的問題に対して敏感。また、他者に追従する傾向

がなく自分で判断して結論を出す。

(III) 内的統制型・外的統制型の行動分析

実験的研究に基づいて、内的統制型・外的統制型の個人が、行動にどのような影響を及ぼすかという問題を検討した。その結果、① 内的統制型は現実的な要求水準を設定し、外的統制型は非現実的な要求水準を設定した。② 挑危険行動の測定の結果、内的統制型は、ギャンブルで多量の金額を賭け、その獲得金額も高かった。③ 価値に関する認知閾の知覚実験においては、内的統制型・外的統制型ともに人格変数としての内的統制型・外的統制型に関連のある語に対して高い価値をもつ傾向のあることが見出された。④ 連想実験において、内的統制型は内的統制型に関連のある語に対して同価値反応を示し、肯定的評価をもつ反応が多かった。他方、外的統制型は外的統制型に関連のある刺激語に対して、同価値的反応および肯定的な評価をもつ反応が多かった。⑤ 前述の結果に相対応して内的統制型は外的統制型に関連のある語、外的統制型は内的統制型に関連のある語に対して反価値的反応、否定的な評価をもつ反応語が多かった。⑥ また、外的統制型は内的統制型に比べて不安傾向が高く、それに比べて、内的統制型は不安のためにかえって遂行行動が促進される不安因子が見出された。⑦ 学力については、内的統制型・外的統制型と学業成績との相関は、無相関であり、知能指数との相関も低かった。⑧ 内的統制型・外的統制型の文化人類学的考察によって文化的所産が社会的事象に対しての個人の認知の仕方を異にすることが明確化された。

名古屋大学

教育学博士

増田末雄 思考過程の研究 演繹的推理のメカニズム

本研究の目的は、言語を媒介とする演繹的推理（特に、三段論法形式）のメカニズムを明らかにしようとする。

本論文の構成は以下のようなものである。

第一部 序論 1. 緒言 2. 研究経過 3. 本論文の構成 第二部 本論 第一章 演繹的推理に関する諸問題 1. 児童における演繹的推理 2. 成人における演繹的推理 3. 演繹的推理に影響する心理的要因 第二章 演繹的推理における課題形式 1. 論理学的側面からの考察 2. 文法論的側面からの考察 3. 言語学的側面からの考察 第三章 演繹的推理における名辞の機能 1. 熟知度の差異に基づく名辞の組合せ